

新翔高等学校

実施日時	令和3年10月22日（金）
参加者	生徒111名、教職員9名 計120名
実施内容	土砂災害に関する防災学習

ねらい

- 1 近年、増加する豪雨による土砂災害について理解を深める。
- 2 紀伊半島大水害の状況や体験談を通して、災害時、自分の取るべき行動を考える。

主なプログラム

- 1 事前学習 クラス担任がLHRの中で実施。
9月 『防災ハンドブック』を使い、災害が起こったときの行動や事前の準備について学ぶ。
10月 『「災害の記憶」を未来に伝える』を用いて、特に津波と土砂災害に関する内容、地元地域の内容に重点を置いて学習。
- 2 和歌山県土砂災害啓発センターの方を招き、紀伊半島大水害の被害状況とその原因、土砂災害のメカニズムなど、豪雨による土砂災害について学ぶ。また、紀伊半島大水害被害者による体験談（語り部による紙芝居）や、事後の聞き取り調査の話を聞く。最後に学習した内容や、災害に関する〇×クイズを通して、知識の確認をする。

概要

- 1 事前学習
『防災ハンドブック』や『「災害の記憶」を未来に伝える』を使い、過去の事例、災害が起こったときの行動や事前の準備の必要性、どんな準備をしたら効果的かなどを学んだ。

- 2 当日の内容

①和歌山県土砂災害啓発センター 坂口隆紀氏より、紀伊半島大水害の被害状況とその原因、土砂災害のメカニズムなど、豪雨による土砂災害について話を聞いた。実際の土石流の映像に生徒たちは驚いていた。



②紀伊半島大水害の被災者であり、その後防災士として自らの体験を紙芝居で語り継ぐ語り部 久保榮子さんより、その当時の体験を紙芝居として聞く。家族や地域の方との最後の会話や後悔したことなどをこと細やかに話をしてくれた。また、災害後、時間が経過して始めて語り部ができる地域の方の聞き取り調査の様子なども伺った。その中で、「脱兎の勢い」や「自分の命は自分で守る」などとにかく早く逃げることの大切さを強く訴えていた。



③当日の話を理解できているか確認するため、〇×クイズを行った。また、災害が起こったときにどのように対応すべきか、事前の準備をどのように行うべきかについて、考えることができた。



参加者感想文

- ・紀伊半島大水害で多くの死者・行方不明者の人がいたと聞いて、心が苦しくなりました。久保榮子さんのお話を聞いて本当に「早めの避難」が大切だと思いました。
- ・久保さんは、大水害で旦那さんや近所の方を亡くされ、本当に辛かったと思います。なんとかして自分は生きようという思いが紙芝居でとてもわかりました。
- ・お話を聞いて、自分以外にもこのような大変な経験をしていることを知りました。自分も水害でペットを亡くし、住んでいた家も半壊したので、その恐ろしさがよく伝わりました。その中で、早めの避難が大切だということがとても共感が持てました。
- ・今日の久保さんの体験した話を聞いて、気をゆるめてはいけなと改めて思いました。家族や友人を失ってしまっても、僕たちの未来を考えてくれて、お話をしてくれたのには感謝しかないです。
- ・土砂災害の話を聞いて、水の怖さというものを改めて実感しました。これからはいつ起こるか分からない水害にどう向きあって行くかを考えていきたい。
- ・坂口さんや久保さんのお話をきいて、これから来るといわれている南海トラフ大地震や大水害がいつ起きたとしても大丈夫なように日頃から準備しておこうと思いました。
- ・次にこのような大災害が起きるのであれば、自分はまっ先に避難しようと思った。また、災害が来た時に自分が避難する場所をあらかじめ決めておこうと思った。
- ・災害は、いつどこで起きるか分からないし、大きな地震や津波が来たらどうなるか予想もつかないけど、何が起きたとしても、大丈夫なように早めに備えをしておこうと思いました。

成果と課題

【成果】

新型コロナウイルスへの対策が十分に取れないかもしれないと考え、今年度も例年実施している班別学習（パーテーションの設置・組立、ワークショップ、炊き出し・配膳訓練、聞き取り調査など）を実施しなかった。代わりに昨年度も実施した、和歌山県土砂災害啓発センター 坂口隆紀所長による土砂災害に関する防災学習と、紀伊半島大水害の被災者による紙芝居を行った。

【課題】

今年度もコロナ禍の影響で、防災スクール本来の目的の一つである、生徒自身が参加体験できるプログラムを実施することができなかった。来年度以降は、コロナ禍の状況を見ながら、本来の参加体験型のプログラムを実施できるよう考えていきたい。